

平成25年度

病害虫情報(第2号) 5月予報

平成25年4月30日
神奈川県農業技術センター所長

【内容】

- I 5月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点 …… 1
- II 防除情報(1) 茶のクワシロカイガラムシの防除適期は5月中旬～6月上旬!! …… 9
- 防除情報(2) イチゴ炭疽病は親株から防除! …… 10
- III 5月の病害虫発生予報の内容とその根拠 …… 11
- IV 5月の気象予報及び気象の経過 …… 13

農薬を使用する際は、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
収穫期の作物が近接している場合など、個別に残留基準値の設定状況を考慮する必要がある場合は関係機関にご相談ください。

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
テレフォンサービス TEL 0463-58-6612
※ テレフォンサービスは、平成26年5月末で終了します。
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

I 5月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点

※ [防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[発生・防除時期] ———— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …… 感染時期 ←————→ 防除適期

* 農薬に関する情報は、平成25年4月24日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				5月			6月		
				上	中	下	上		
イ	ばか苗病	—	○		(は種)			塗沫処理(30mL/乾燥糶1kg) (予・治)テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍 (予・治)ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍 種子浸漬(24時間浸漬) (予・治)テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 (予・治)ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍等	・イネシンガレセンチュウの防除のため、スミチオンは必ず加える。 ・もみ枯細菌病が心配される場合は、テクリードCを使用する。 ・種子消毒で使用した薬剤の廃液は、適正に処理する。
	いもち病	—	○	←————→					
	イネシンガレセンチュウ	—	○		種子消毒				
ネ	苗立枯病	—	○		(は種)			(予・治)タチガレエースM粉剤 [は種前,1回] 6~8g/箱 + (予)ダコニール粉剤 [は種前,1回] 15~20g/箱等	・育苗箱土壤に均一に混和する。
				←————→	床土消毒				

病害虫情報

(H25・No.2)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				5月		6月			
				上	中	下	上		
イネ	イネミズソウムシ	—	○			(田植時)	(育苗箱施薬：散布)	<ul style="list-style-type: none"> ・掛け流し状態での農薬散布を避け、1週間程度止め水にし、湛水状態を保つ。 ・ツマグロヨコバイの発生の多い地域では、アドマイヤーCR、グランドオンコルを使用する。 ・ニカメイチュウおよびイネツトムシ対策にはグランドオンコルかプリンスを使用する。 ・白葉枯病の発生が懸念されるほ場では、Dr.オリゼプリンス粒剤6(育苗箱施薬, 緑化期～移植当日, 50g/箱)を使用するとよい。 <p>※ヒメトビウンカ(縞葉枯病)は、平成25年3月29日に注意報を発表。</p>	
	ヒメトビウンカ (縞葉枯病)	多	○			← 育苗箱施薬 →	アドマイヤーCR箱粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日, 1回] 50g/箱 グランドオンコル粒剤 [移植3日前～移植当日, 1回] 50g/箱 プリンス粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日, 1回] 50g/箱等		
カンキツ	生育	並		《開花期》				<生育調査：足柄地区事務所根府川分室・普通温州>	
	灰色かび病	—	○	← 感染期 →				(予・治) ストロビードライフロアブル [14日, 3回] 2,000～3,000倍	<ul style="list-style-type: none"> ・満開～落花期に散布する。 ・ストロビー、ナリア、フロンサイド(2,000倍)は黒点病にも適用あり。 ・そうか病多発園ではフロンサイドを使用する。 ・フロンサイドは、かぶれに注意する。
	そうか病	やや多	○	← 感染期 →				(予・治) ナリアWDG みかん：[45日, 3回] 2,000～2,500倍 みかんを除くかんきつ：[14日, 3回] 2,000～2,500倍 (予) フロンサイドSC [30日, 1回] 2,000～2,500倍等	
かいよう病 (中晩柑類)	やや少	○	← 感染期 →				(予) コサイド3000 [生育期, —] 2,000倍 + クレフノン [—, —] 200倍 (予) ICボルドー412 [—, —] 50倍等	<ul style="list-style-type: none"> ・前年多発園では、必ず防除する。 ・ICボルドーは花卉が落ちる時期以降に使う。 	
カキ	生育	早		《開花期》				<生育調査：生産技術部果樹花き研究課果樹班・富有>	
	落葉病	やや少	○	← 感染期 →				(予) エムダイファー水和剤 [45日, 2回] 400～650倍 (予・治) ベルクート水和剤 [14日, 3回] 1,000～1,500倍等	<ul style="list-style-type: none"> ・5月中旬～6月に雨が多いと発生が多くなる。 ・ベルクートは西村早生には使用しない。 ・ベルクートはうどんこ病、灰色かび病にも適用あり。
	カキクダアザミウマ	—	○	← 幼虫 (葉巻) →				モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000～4,000倍等	<ul style="list-style-type: none"> ・モスピランはカイガラムシ類、カキノヘタムシガ、カメムシ類にも適用あり。

病害虫情報

(H25・No.2)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				5月		6月			
				上	中	下	上		
ナ	生育	早		《新梢伸長期》				<生育調査：生産技術部果樹花き研究課果樹班・豊水>	
	黒星病	やや多	○	 (黒星病重点防除期間)				(予・治) インターフロアブル [7日, 3回] 5,000~12,000倍 (予) キノンドーフロアブル [3日, 9回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [14日, 5回] 1,500倍 等	・インターは赤星病(8,000~12,000倍)にも適用あり。赤星病多発(または4月下旬に治療剤を散布していない)園では、5月早々に散布する。
	アブラムシ類	—	○					アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 ハチハチフロアブル [14日, 2回] アブラムシ類：2,000倍 等	・アルバリン又はスタークルはシンクイムシ類、コナカイガラムシ類にも適用あり。 ・ハチハチはニセナシサビダニ・アザミウマ類、シンクイムシ類(1,000倍)にも適用あり。
シ	カメムシ類	やや少	○					コテツフロアブル [前日, 3回] 2,000~3,000倍 等	・コテツはナミハダニ・カンザワハダニ、ヨモギエダシヤク・チャノキイロアザミウマ(2,000倍)にも適用あり。
チ	生育	並		《摘採期》				<生育調査：北相地区事務所研究課・やぶきた>	
	チャノホソガ ハマキムシ類	並 並	○ ○					エスマルクDF [発生初期但し7日, -] チャノホソガ、チャハマキ、 チャノコカクモンハマキ：1,000倍 等	
	カンザワ ハダニ	並	○					コテツフロアブル [7日, 2回] カンザワハダニ、 チャノキイロアザミウマ：2,000倍 キラップフロアブル [7日, 1回] チャノキイロアザミウマ、 ツマグロアオカスミカメ：2,000倍 等	・コテツはチャトゲコナジラミ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノコカクモンハマキ、ヨモギエダシヤクにも適用あり。
ヤ	ツマグロアオ カスミカメ	やや少	△						・キラップはチャノホソガにも適用あり。
促成 トマト	灰色かび病	並	○					(予) ボトキラー水和剤 [発病前~発病初期, - : ダクト内投入] 10~15g/10a/日 (予・治) カンタスドライフロアブル [前日, 3回] 1,000~1,500倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日, 3回] 1,000~1,500倍 等	・発病部と枯葉を取り除き、施設の外に持ち出し、適正に処分する。 ・カンタスは葉かび病、菌核病にも適用あり。

病害虫情報

(H25・No. 2)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				5月			6月		
				上	中	下	上		
促成 トマト	コナジラミ類 オンシツ コナジラミ	やや少	○	←	~~~~~	~~~~~	~~~~~	<p>サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300倍 ハチハチ乳剤 [前日, 2回] 1,000~2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍</p>	<p>・収穫終了とともに施設を密閉、蒸し込みで死滅させること。 ・サンクリスタルはアブラムシ類・トマトサビダニ、ハダニ類・うどんこ病(300~600倍)にも適用あり。 ・ハチハチはアザミウマ類・アブラムシ類・トマトサビダニ、ハモグリバエ類・うどんこ病(1,000倍)にも適用あり。 ・モスピランはアブラムシ類、アザミウマ類にも適用あり。</p>
	タバコ コナジラミ (TYLCV)	やや少	○	←	~~~~~	~~~~~	~~~~~		
促成	べと病	やや多	○	←	~~~~~	~~~~~	~~~~~	<p>(予・治)ランマンフロアブル [前日, 4回] 1,000~2,000倍 (予・治)ホライズンドライフフロアブル [前日, 3回] 2,500倍 (予・治)アリエッティ水和剤 [前日, 3回] 400~800倍等</p>	<p>・ホライズンはシモキサニルとファモキサドンの混合剤。ベトファイター等と同一成分を含む。</p>
キユ	うどんこ病	やや多	○	←	~~~~~	~~~~~	~~~~~	<p>(予)インプレッション水和剤 [発病前~発病初期, -] 500~1,000倍 (予・治)アフエットフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 (予・治)パンチョTF顆粒水和剤 [前日, 2回] 2,000倍等</p>	<p>・インプレッションは灰色かび病にも適用あり。 ・アフエットは灰色かび病、菌核病にも適用あり。 ・パンチョTFはシフルフェナミドとトリフルミゾールの混合剤。トリフミン等と同一成分を含む。</p>
ウリ	ミナミキイロ アザミウマ (MYSV)	並	○	←	~~~~~	~~~~~	~~~~~	<p>カスケード乳剤 [前日, 4回] ミナミキイロアザミウマ：2,000~4,000倍 ベストガード水溶剤 [前日, 3回] 1,000~2,000倍 コテツフロアブル [前日, 3回] ミナミキイロアザミウマ：2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 3回] アザミウマ類：2,000~4,000倍 コナジラミ類：2,000倍等</p>	<p>・収穫終了とともに施設を密閉、蒸し込みで死滅させること。 ・カスケード(2,000倍)はトマトハモグリバエにも適用あり。 ・ベストガードはアブラムシ類にも適用あり。 ・コテツはミカンキイロアザミウマ、ハダニ類にも適用あり。 ・モスピランはアブラムシ類(2,000~4,000倍)にも適用あり。</p>
	コナジラミ類 (CCYV)	-	○	←	~~~~~	~~~~~	~~~~~		

病害虫情報

(H25・No. 2)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				5月			6月		
				上	中	下	上		
露地	疫病	—	○					(予)Zボルドー [—, —] 400~600倍 (予)ダコニール1000 [前日, 4回] 1,000倍 等	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨により土壌中の病原菌が土粒とともにね上がって発病するので、株元にマルチを敷く。 ・Zボルドー(500倍)はすすかび病にも適用あり。 ・ダコニールは葉かび病、うどんこ病、灰色かび病、すすかび病にも適用あり。
トマト	コナジラミ類 (TYLCV) アブラムシ類 (CMV)	— 並	○ ○					【定植時：粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時, 1回：植穴土壌混和] コナジラミ類、アブラムシ類：1~2g/株 モスピラン粒剤 [定植時, 1回：植穴土壌混和] コナジラミ類、アブラムシ類：1g/株 【定植後：散布】 ベストガード水溶剤 [前日, 3回] コナジラミ類、アブラムシ類：1,000~2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] コナジラミ類、アブラムシ類：4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] コナジラミ類、アブラムシ類：300倍 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス病の発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ・モスピランはトマトハモグリバエにも適用あり。 ・ベストガード(1,000倍)はアザミウマ類にも適用あり。 ・サンクリスタルはトマトサビダニ、ハダニ類・うどんこ病(300~600倍)にも適用あり。
露地	べと病	—	○					(予)ダコニール1000 [前日, 8回] 1,000倍 (予)ジマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [前日, 3回] 600~800倍 等	<ul style="list-style-type: none"> ・土のはね返りを防ぐためマルチをする。草勢の衰えは発生を助長させる。 ・ジマンダイセン、ペンコゼブは褐斑病(600倍)にも適用あり。
ユウリ	うどんこ病	—	○					(予)インプレッション水和剤 [発病前~発病初期, —] 500~1,000倍 (予)フルピカフロアブル [前日, 4回] 2,000~3,000倍 (予)ダコニール1000 [前日, 8回] 1,000倍 等	<ul style="list-style-type: none"> ・窒素肥料の多用は発生を助長する。

病害虫情報

(H25・No. 2)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				5月			6月		
				上	中	下	上		
露 地 キ ュ ウ リ	アザミウマ類 (MYSV)	並	○					【定植時：粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時, 1回：植穴又は株元土壌混和] ミナミキイロアザミウマ、アブラムシ類：1～2g/株 [定植時, 1回：植穴土壌混和] コナジラミ類：2g/株 モスピラン粒剤 [定植時, 1回：株元散布] アブラムシ類：0.5～1g/株 【定植後：散布】 ベストガード水溶剤 [前日, 3回] ミナミキイロアザミウマ、アブラムシ類、 コナジラミ類：1,000～2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類：4,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] アザミウマ類：5,000倍 等	・アザミウマ類が黄化えそ病 (MYSV) を媒介するので、防除を徹底する。 ・スピノエースはハモグリバエ類にも適用あり。
	アブラムシ類 (CMV)	並	○						
	コナジラミ類 (CCYV)	—	○						
ナ ス	アザミウマ類	並	○					【定植時：粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時, 1回：植穴又は株元土壌混和] アブラムシ類、ミナミキイロアザミウマ：1～2g/株 ダントツ粒剤 [定植時, 1回：植穴処理土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類：1g/株 【定植後：散布】 ベストガード水溶剤 [前日, 3回] ミナミキイロアザミウマ、アブラムシ類、 コナジラミ類：1,000～2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] アザミウマ類：2,500～5,000倍 ウララDF [前日, 3回] ミカンキイロアザミウマ、コナジラミ類：2,000倍 アブラムシ類：2,000～4,000倍 等	・スピノエース(5,000倍)はオオタバコガにも適用あり。
	アブラムシ類	並	○						
	コナジラミ類	—	○						

病害虫情報

(H25・No. 2)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				5月			6月		
				上	中	下	上		
ネギ	さび病	—	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予)ジマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [14日, 3回] 600倍等	・ジマンダイセン、ペンコゼブはべと病、黒斑病にも適用あり。
	ネギ・アザミウマ	—	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	【定植前：灌注】 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [定植前日～定植時, 1回：セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊当たり0.5L] 50倍 【定植時：粒剤施用】 ダントツ粒剤（露地栽培） [植付時, 1回：植溝処理] 6kg 【生育期：散布】 ダントツ水溶剤 [3日, 4回] 2,000～4,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日, 3回] 1,000倍 ボタニガードES [発生初期, —] 500～1,000倍等	・ダントツはネギハモグリバエにも適用あり。 ・アフームエクセラはネギハモグリバエ、シロイチモジヨトウ（1,000～1,500倍）にも適用あり。 ・アフームエクセラはエマメクチン安息香酸塩とルフェスロンの混合剤。アフーム、マッチと同一成分を含む。
春キャベツ	コナガ	やや少	△	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	アフーム乳剤 [前日, 3回] 1,000～2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 [前日, 3回] 2,000～4,000倍等	・アフームはハスモンヨトウにも適用あり。 ・フェニックスはハスモンヨトウ、オオタバコガ（2,000倍）にも適用あり。
三 浦 半 島 地 区 野 菜									
ス	つる枯病	—	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予)ダコニール1000 [3日, 5回] つる枯病：700～1,000倍 炭疽病：700倍 (予)ジマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [7日, 7回] 400～600倍 (予・治)ベルコート水和剤 [前日, 4回] 1,000倍等	・降雨による土のはね返りが感染・発病の誘因となる。 ・ベルコートはうどんこ病、菌核病にも適用あり。
	炭疽病	—	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~		
イ	アブラムシ類	—	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	モスピラン顆粒水溶剤 [3日, 3回] 2,000～4,000倍 ハチハチフロアブル [前日, 2回] 1,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] アザミウマ類：5,000倍等	・モスピラン(2,000倍)はコナジラミ類にも適用あり。 ・ハチハチはうどんこ病にも適用あり。
	アザミウマ類	—	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~		
カ	ハダニ類	—	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	バロックフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 コロマイト乳剤 [7日, 2回] 1,000倍等	

病害虫情報

(H25・No. 2)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				5月			6月		
				上	中	下	上		
三浦半島地区野菜									
カボチャ	疫病	—	○	←-----→				(予)ジマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [30日, 2回] 600倍 (予・治)リドミル銅水和剤 [14日, 3回] 800倍 等	・ほ場の排水対策など入念に行なう。 ・ジマンダイセンはべと病、つる枯病、炭疽病にも適用あり。 ・ペンコゼブはべと病にも適用あり。
	うどんこ病	—	○	←-----→	←-----→	←-----→	(予)フルピカフロアブル [前日, 4回] 2,000~3,000倍 (予・治)ベルコート水和剤 [7日, 4回] 1,000~2,000倍 等		
メロ	つる枯病	—	○	←-----→				(予)ジマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [7日, 5回] 400~600倍 (予)ダコニール1000 [3日, 5回] つる枯病: 1,000倍 べと病: 700~1,000倍 等	・べと病は、降雨後に病原菌の活動が活発になる。 ・ジマンダイセンは炭疽病にも適用あり。
	べと病	—	○	←-----→	←-----→	←-----→			
ロ	うどんこ病	—	○	←-----→	←-----→	←-----→	(予)フルピカフロアブル [前日, 4回] 2,000~3,000倍 (予)ダコニール1000 [3日, 5回] 700倍 等		
	アブラムシ類	—	○	←-----→				ベストガード水溶剤 [7日, 3回] 1,000~2,000倍 コロマイト乳剤 [前日, 2回] コナジラミ類: 1,000倍 ウララDF [前日, 2回] アブラムシ類: 2,000~4,000倍 コナジラミ類: 2,000倍 等	・タバココナジラミはメロンなどに退緑黄化ウイルスを媒介する。 ・ベストガードはミナミキイロアザミウマにも適用あり。 ・コロマイトはトマトハモグリバエにも適用あり。
コナジラミ類	—	○	←-----→	←-----→	←-----→				
ン	ハダニ類	—	○	←-----→	←-----→	←-----→	バロックフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 コロマイト乳剤 [前日, 2回] 1,000倍 等		
共通							【ミツバチに影響のある剤】 ・ダコニール(1日)、モスピラン(1日)、ハチハチ(放飼期間中の使用は避ける)、スピノエース(5,000倍: 2日)、バロック(1日)、コロマイト(1日)、ベストガード(6日)		

病害虫情報

(H25・No. 2)

神奈川県農業技術センター

Ⅱ 防除情報(1) 茶のクワシロカイガラムシの防除適期は5月中旬～6月上旬！！

ふ化最盛予測日の2～5日後に防除を行いましょ。

インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>
 テレホンサービス 0463-58-6612

茶の難防除害虫クワシロカイガラムシは、雌の産卵数が多く、増殖率が高いため、適期防除ができないと1世代で多発する恐れがあります。また、防除適期が幼虫ふ化最盛日の2日後から5日後までですので、適切な発生予測に基づいた防除を行うことが重要です。

平成25年4月30日現在のふ化最盛予測日は、表1、図1のとおりです。最寄りの基準地点と標高の差(表2)を参考に、防除を行うようにしてください。

なお、適期防除を行っていただくため、**更新情報を平成25年5月7日以降にホームページに掲載**する予定です。

表1 各地のクワシロカイガラムシの第1世代ふ化最盛予測日と防除適期の目安 (平成25年4月30日現在)

予測基準地点名	予測基準地点の概要	標高(m)	ふ化最盛予測日*	防除適期の目安
① 相模原市緑区寸沢嵐	県農業技術C北相地区事務所	170	5/18	5/20 ~ 5/23
② 厚木市七沢	県自然環境保全C	110	5/14	5/16 ~ 5/19
③ 海老名市本郷	県農業技術C畜産技術所	20	5/9	5/11 ~ 5/14
④ 平塚市上吉沢	県農業技術C代表調査地点	80	5/13	5/15 ~ 5/18
⑤ 山北町皆瀬川	県大野山乳牛育成牧場	550	6/7	6/9 ~ 6/12
⑥ 山北町谷ヶ	茶園	300	5/26	5/28 ~ 5/31
⑦ 南足柄市塚原	茶園	60	5/19	5/21 ~ 5/24
⑧ 小田原市扇町	アメダス	14	5/11	5/13 ~ 5/16
⑨ 小田原市根府川	県農業技術C根府川分室	130	5/16	5/18 ~ 5/21

※：ふ化時期に降雨が続く場合は、実際のふ化最盛日が予測日より遅れることがあります。
 最終温度調査日：⑥・⑦のみ4/28まで。その他は4/29まで。

表2 温度計測地点所在地からの標高差と第1世代ふ化最盛予測日との関係 (おおよそのイメージ)

予測基準地点からの標高差(m)	-100	-80	-60	-40	-20	0	+20	+40	+60	+80	+100
相模原市緑区寸沢嵐	5/12	5/13	5/14	5/16	5/17	5/18	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22
厚木市七沢	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17	5/18	5/19
海老名市本郷	—	—	—	—	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14
平塚市上吉沢	—	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17	5/18
山北町皆瀬川	5/31	6/2	6/3	6/4	6/6	6/7	—	—	—	—	—
山北町谷ヶ	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/30	5/31	6/1
南足柄市塚原	—	—	5/17	5/18	5/18	5/19	5/20	5/21	5/21	5/22	5/23
小田原市扇町	—	—	—	—	—	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16
小田原市根府川	5/10	5/11	5/12	5/13	5/15	5/16	5/17	5/18	5/19	5/19	5/20
<参考>補正日数の目安(日)	-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5

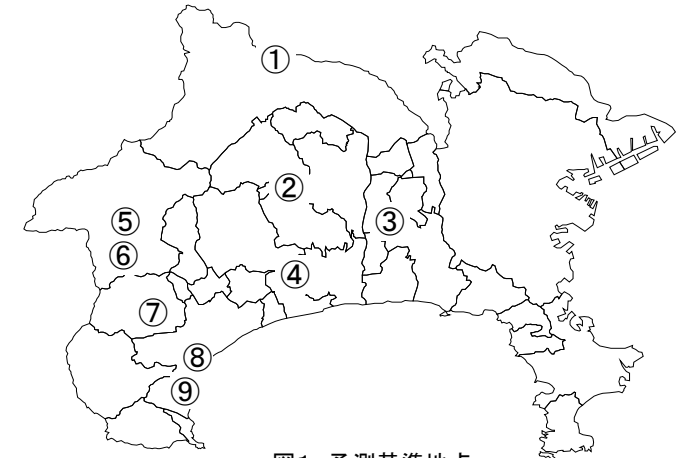


図1 予測基準地点

[主な防除薬剤]

薬剤名	希釈倍率等	使用時期及び回数
アルバリン粒剤	12kg/10a	7日, 2回
スタークル粒剤	12kg/10a	7日, 2回
アブロード水和剤	1000倍	14日, 2回
アブロードエースフロアブル	1000倍	21日, 1回
カルホス乳剤	1500倍	21日, 1回
スプラサイド乳剤40	1000~1500倍	14日, 1回
ダースバン乳剤40	1000倍	14日, 2回
コルト顆粒水和剤	2000~3000倍	7日, 2回

利用例：山北町にお住まいの人は、山北町谷ヶの温度を参考にしてください。

自分の畑の標高が260mの場合、予測基準地点(谷ヶ：300m)との標高差が-40mになりますので、表2から、第1世代ふ化最盛予測日は5/24になります。



インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

電話番号 0463-58-6612

防除情報(2) イチゴ炭疽病は親株から防除!

炭疽病の第一伝染源は潜在感染株や土壌中の罹病残渣です。これら発病株の病斑上や土中に残った菌の胞子が雨や灌水のしぶきなどによって飛散、伝染します。

平均気温が20 以上になると感染親株からの分生子の飛散が増加するため、**親株から防除を徹底**します。

〔防除対策〕

1 適正な親株管理

親株は適正肥培管理を行い、過繁茂を避ける。7月中旬に切り離しが終わる計画的採苗の実施。親株の古葉の早期摘葉。親株自体もできるだけ早く除去する。

2 雨水の跳ね上がりの防止

高さ80cm以上の高設育苗床。低水圧による灌水。風の吹き込みを防ぐ。雨よけ育苗。

3 灌水方法

植物体を長時間濡らさない。特に多灌水、長時間の灌水および夕方の灌水は避ける。

4 苗を蒸らさない

適正な株間の確保。定期的な下葉除去。通風を確保し、多湿を防ぐ。

5 発病株・感染株の早期除去

発病株や感染が疑われる株の早期適正処理。

適正処理：肥料袋などに詰め、半分まで水を加えて口を縛り、嫌氣的発酵処理する。

6 薬剤防除の徹底

発病前から予防散布の徹底。

特に降雨前後や葉かきなどの作業後の防除。

発病を確認した場合は、発病株を除去後、防除間隔を4~7日程度に短縮する。

表 イチゴ炭疽病に登録のある薬剤例

系統	薬剤名	使用時期,使用回数	倍率
XA	タフパール	育苗期~前日,-	2,000~4,000倍
YA	キノドーフロアブル	育苗期,3回	500~800倍
YB	アントラコール顆粒水和剤	仮植栽培期,6回	500倍
YB	ジマンダイオン水和剤	仮植栽培期(但し76日),6回	600倍
YB	デランフロアブル	育苗期,2回	1,000倍
YC	セイビアーフロアブル20	前日,3回	1,000倍
YG	オーソイト水和剤80	30日,3回	800倍
YY	ベルコートフロアブル	育苗期(定植前),5回	1,000倍
YR+YQ	ゲッター水和剤	21日,3回	1,000倍
YT	サンリット水和剤	前日,3回	2,000倍
ZU	ファンタジスタ顆粒水和剤	前日,3回	2,000倍

注1) XA~ZUの記号は県防除指導指針の系統別記号による。

注2) タフパールは展着剤(アキラ、ダイコート、ニズは除く)を使用し、夕方散布する。また、散布後はハウスを密閉し、湿度維持することが望ましい。

注3) キノドーフロアブルはクラウン部散布(100倍,5mL/株)の適用もあり。

注4) セイビア、ゲッターを40~50日間隔で交互に防除体系に組み入れると効果が高い。

注5) 耐性菌の発生防止のため、ゲッター、ファンタジスタ、サンリット、セイビアは連用を避け、多用しない。

注6) *を含む防除体系に展着剤アピオンE(500倍)もしくは、まぐぴか(5,000倍)を加用し、防除効果の向上が認められた試験例あり。試験例では*の薬剤の他にベルコート水和剤を使用。



病害虫情報

(H25・No.2)

神奈川県農業技術センター

Ⅲ 5月の病害虫発生予報の内容とその根拠

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
水稲 ヒメトビウンカ (縞葉枯病)	少	多	1) 越冬幼虫の密度は平年より多く、イネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率は平均1.0% (平年0.6%) であった。(+) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
カンキツ そうか病	少	やや多	1) 前年10月の発生は、平年より多かった。(+) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
かいよう病 (中晩柑類)	少	やや少	1) 巡回調査では、越冬病斑は平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、前年葉の越冬病斑は春枝では平年並(±)で、夏秋枝では平年よりやや少ない(－)。 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
ミカンハダニ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年並。(±) 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
ナシ 黒星病	少	やや多	1) 前年10月の発生は平年並であったが、6～9月の発生は平年より多く発生していた。(+) 2) 巡回調査では、花そう基部における発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 4) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
ナシ カメムシ類	少	やや少	1) 落葉内のチャバネアオカメムシ成虫の越冬数は、平年より少ない。(－) 2) 予察灯への誘殺はなく、誘殺数が平年並。(±) 3) フェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い。(+) 4) 県予察ほ(上吉沢)の予察灯への誘殺はなく、誘殺数が平年並。(±) 5) 県予察ほ(根府川)の予察灯及びフェロモントラップの誘殺数は、平年並。(±) 6) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
カキ 落葉病	少	やや少	1) 昨年10月の発生は、平年より少なかった。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
チャ チャノホソガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)とも平年より少ない。(－) 4) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
ハマキムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯(山北)への誘殺はなく、誘殺数が平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北では平年並(±)、県予察ほ(寸沢嵐)では平年より多い(+) 4) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)

病害虫情報

(H25・No.2)

神奈川県農業技術センター

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
チャ カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
ツマグロアオカスミカメ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
促成トマト 灰色かび病	中	並	1) 巡回調査では、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
タバココナジラミ オンシツコナジラミ	少 少	やや少 やや少	1) 巡回調査では、タバココナジラミおよびオンシツコナジラミの寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
促成キュウリ べと病	中	やや多	1) 巡回調査では、発生は平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並、日照時間は少ない予報。(＋)
うどんこ病	中	やや多	1) 巡回調査では、発生は平年よりやや多い。(＋) 2) 気温、降水量とも平年並、日照時間は少ない予報。(＋)
ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
露地トマト・ナス・キュウリ アブラムシ類	－	並	1) 巡回調査では、ジャガイモでの発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への有翅アブラムシの飛来数は平年よりやや多い。(＋) 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
アザミウマ類	－	並	1) 野外に設置した青色粘着トラップ調査では、発生量は平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
春キャベツ コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、横須賀三浦での発生は、平年よりやや少なく(－)、横浜藤沢では平年並(±)。 2) フェロモントラップ調査では、三浦の発生量は平年より少なく(－)、横浜、伊勢原は平年並(±)。 3) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップ調査では、発生量は平年より少ない。(－) 4) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)

(注) 「発生量」の表示 …… 程 度：甚>多>中>少>無

平年比：多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」 …… (＋)：多発要因 (－)：少発要因

